

「林木」の地に「鳶巢」という地名が始めて使用されたのは、明治二十一年（一八八八）に市政、町村制公布により、楯縫郡の西・東林木村を合わせて、楯縫郡「鳶巢村」となった事からです。それ以来、当地区では「鳶巢」の名前が使われるようになりましたが、「鳶巢」には昔から「鳶が巢山」があります。

戦国時代に構築された「鳶が巢城」も、おそらく、その「鳶が巢山」から呼称されたのだろうと思います。

さて、その「鳶が巢山」は何時ごろ、どうしてつけられたのでしょうか。

ある古老の話によりますと、白雉三年（六五二）に美談郷の旅伏山に「多夫志烽・たぶしのとぶひ」がつくられた事が起因だそうです。

出雲国風土記によれば、非常の際に狼煙を挙げて急を報ずる施設「烽」が出雲の国には五烽あり、「多夫志烽」はその中央に位置する場所であります。

そのとなりの林木郷にも、烽火台の遺構を持った山があります。戦国時代にはそこから烽火を揚げたという伝説もありますが、その山を「とぶひ・・・とびす・・・鳶巢山」と変化したものではないかと言うことです。

また 別の古老によりますと、全国に「鳶巢」という地名を持つ

た地名は数多くありますが、そのほとんどは、戦時の要塞あるいは砦に「鳶巢」の地名がつけられています。

これらの要塞・砦には烽火台があり、夜昼となく狼煙があがり地域の住民はこれをいつしか「飛び火・・・とびす・・・鳶巢」と呼ぶようになったのではないかとの一説です。

いずれにしても、林木の「鳶巢山」は、中世以降になってから呼ばれるようになったのではないのでしょうか。

付記

「鳶巢」は鳥のとんび（鳶）からの呼称では無いようです。

★理由

「鳶・鴟・鵂」 ワシタカ科の鳥・・・日本野鳥の会より

・鳶（とんび）の巢は森林の高い木に営巢する。

・日本各地に留鳥として棲息し、市街地、村落付近、海岸に多い。

・主にねずみや魚の死体を好み、腐肉を食する。

・このような貪欲な鳥の名を地名の代名詞として使用するのは好ましくありません。

